

よりよい学級集団を築く子どもを育てる学級活動（1）

～合意形成を図る話し合い活動の工夫を通して～

要約

人間関係の希薄化が問題となっている現代社会であるが、よりよい社会を形成するためには、集団の中でよりよい人間関係を築いていく必要がある。学校という集団も1つの社会であり、その中でもよりよい集団づくりにつながる資質・能力を育成する必要がある。新指導要領解説特別活動編では、積極的に学校や学級の課題を見出し、よりよく解決するために話し合い、主体的に役割分担して協力し合うことの重要性も示されている。また、本学級の子ども達は、自ら関わろうとする思いをもっている一方で、「めあてに即して自分の考えをつくることができた。」や「全員が納得する考えにまとめることができた。」と感じる児童は半数ほどだった。そこで、学級活動（1）の学習過程において、合意形成を図る話し合い活動を行うことで、共同の目標を達成する期待感をもち、一連の活動を通して、自分が学級のために役に立っているという満足感や集団の一員として自分も貢献できたという充実感を味わわせたいと考え、本研究主題を設定した。

そして、次のような具体的方策のもと、研究を進めていくことにした。

① 全員が納得のいく合意形成を図る話し合い活動の工夫

「出し合う活動」→「合意形成を図る活動」の2つの活動で構成する。「合意形成を図る段階」においては、題材の内容によって異なるパターンで考えを収束させる。

② 子どもが自ら関わろうとする題材の選定

学級目標や学期の重点目標とつなげて、子ども達が共同の目標として自ら関わろうとする思いを高めることができる題材を選定する。

③ 活動場面における振り返り活動の充実

話し合い活動後と実践活動後に、振り返り活動を位置づける。

④ 活動場面における支援の充実

実践の結果、次のような成果（○）と課題（●）を得ることができた。

○ 「合意形成を図る話し合い活動」で内容によって収束のさせ方を変えたことは、子ども達の納得がいく集団決定となり、一連の活動を通して満足感・充実感を高めていくことにつながった。

○ 子ども達が自ら関わろうとする思いをもった題材の選定は、活動に対する思い（期待感）を高めることが分かった。

○ 振り返り活動を「話し合い後」と「実践活動後」の2回設定したことは、学級の一員としての自分の姿をみつめることになり、満足感・充実感を味わうことにつながった。

(3) 今後の課題

● 「合意形成を図る話し合い活動」には自分の意見を再考したり試しの活動を行ったりする必要があるため、十分な時間の確保が必要である。

● 一連の活動に対する自分自身の姿について振り返るだけでなく、学級集団がどのように成長したか振り返らせる場が必要である。

キーワード 自ら関わろうとする思い 思考力・表現力 知識・技能 合意形成

1 主題設定の理由

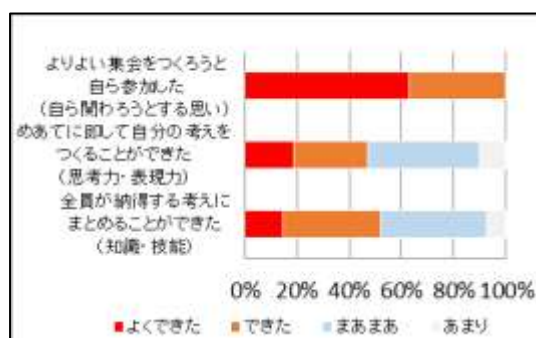
(1) 現代社会と新学習指導要領の動向から

人間関係の希薄化が問題となっている現代社会であるが、よりよい社会を形成するためには、集団の中でよりよい人間関係を築いていく必要がある。学校という集団も1つの社会であり、その中でもよりよい集団づくりにつながる資質・能力を育成する必要がある。

また、新学習指導要領特別活動編によると、改訂のポイントとして、様々な集団活動の中で、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、「人間関係形成」に関わる能力を育てることの重要性が示された。つまり、特別活動では、「人間関係づくり」を基盤にすえ、学校生活を豊かにする子どもを育てることが大切である。その中で、積極的に学校や学級の課題を見出し、よりよく解決するために話し合い、主体的に役割分担して協力し合うことの重要性も示されている。このことから、本主題を設定することは意義深いと考える。

(2) 子どもの実態・教師の指導上の課題から

【図1】は、本学級の6年生32名に、7月の集会後にとったアンケートの結果である。「よりよい集会をつくろうと自ら参加した。」と全ての子どもがこたえたことから、子ども達は自ら関わろうとする思いをもっていることが分かる。しかし、「めあてに即して自分の考えをつくることができた。」や「全員が納得する考えにまとめることができた。」とこたえた子どもは半数ほどだった。



【図1】集会に関するアンケート（7月）N：32

このことから、話し合い活動でめあてを意識しながら話し合いを進める思考力・表現力や集団決定を行う際に合意形成を図る話し合いの技能において不十分さが見られる。

これは、教師自身がこれまでの学級活動（1）の指導において、子ども達にめあて意識をもたせることができず、納得いく話し合いをさせることができなかつたことが原因だと考える。このことから、合意形成を図る話し合い活動を工夫し、よりよい学級集団を築く実践につながる学習を仕組む必要があると考え、本主題を設定した。

2 主題・副主題の意味

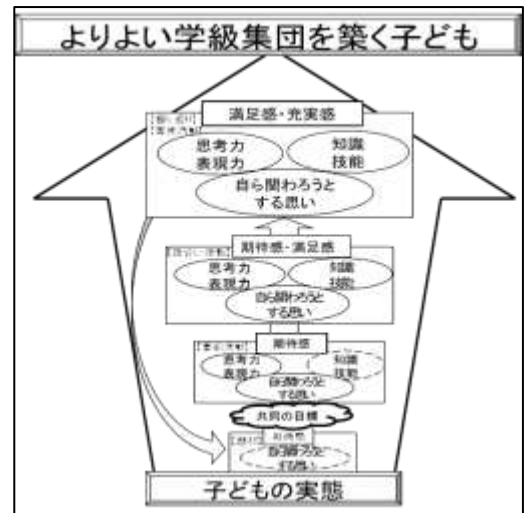
(1) 「よりよい学級集団を築く子ども」とは

共同の目標を達成する期待感をもち、一連の活動を通して、自分が学級のために役に立っているという満足感や、集団の一員として自分も貢献できたという充実感を味わった子どものことである。

具体的には、下記の3つの資質・能力を身につけた子どものことである。

- 共同の目標を達成しようとする思いをもち、自ら他者に自分の思いを伝えたり、よりよい集団をつくろうと自ら他者に関わったりする子ども。（自ら関わろうとする思い）
- 共同の目標を達成するために、よりよい方法を考え、自分の考えを表現し、新しい方法を見出す子ども。（思考力・表現力）
- よりよい集団をつくる方法を理解し、目標達成に向けて自分の役割を果たしたり、他者と協働しながら活動に取り組んだりする子ども。（知識・技能）

これらの3つの資質・能力は、【図2】のように、共同の目標達成に向かって、事前活動から振り返り活動という一連の活動を行い、個と集団が相互に関わり合いながら高まっていく。その中で、「自分が集団にとって役に立っている」や「自分がみんなに必要とされる」という満足感を得て、次第に「自分も集団の一員として学級集団に貢献できた」という充実感を感じることが出来る。この活動を繰り返すことによって、よりよい学級集団を築く子どもへと近づいていく。



【図2】一連の活動で高まる資質・能力の構造

(2) 「合意形成を図る話し合い活動」とは

共同の目標を達成するために、互いの考えのよさや課題を明確にしなが、少数意見にも配慮しつつ、全員が納得する集団決定を行う話し合い活動のことである。

合意形成を図る話し合い活動は、「出し合う活動」→「合意形成を図る活動」の2つの活動で構成する。「合意形成を図る活動」は、【図3】のように、題材の内容によって考えを収束させるパターンを変える。

活動	目的	内容・方法	
出し合う活動	多様な考えを明らかにする。	めあてに即して自分の考えを言う。(めあてとつなげて)	
合意形成を図る活動	互いの考えのよさと課題を明確にし、全員が納得する改善策を見出す。	① Aの考えのよさを明確にする。 ② Aの考えの課題を明確にする。 ③ Bの考えのよさを明確にする。 ④ Bの考えの課題を明確にする。	
		【工夫を取り入れる場合】 ⑤ 課題の改善策を話し合う。 ⑥ 工夫を取り入れるかどうかを決める。	【いくつか絞る場合】 ⑤ めあてに近いのはどれかを検討する。 ⑥ 課題の改善策(条件)を考える。

【図3】合意形成を図る話し合い活動の目的・内容・方法

3 研究の目標

よりよい学級集団を築く子どもを育てるために、合意形成を図る話し合い活動を工夫した学級活動(1)の指導の在り方を究明する。

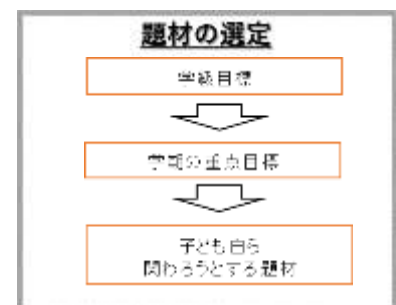
4 研究の仮説

学級活動(1)の学習過程において、合意形成を図る話し合い活動を行えば、「自ら関わろうとする思い」「思考力・表現力」「知識・技能」の3つの資質・能力が高まり、よりよい学級集団を築く子どもを育てることが出来るであろう。

5 研究の具体的な構想

(1) 子どもが自ら関わろうとする題材の選定

【図4】のように「よりよい学級集団を築く子ども」を育てるために、学級目標や学期の重点目標とつなげて、子どもが自ら関わろうとする思いを高めることができる題材を選定する。この時、共同の目標とすることが大切である。



【図4】題材選定までの流れ

(2) 活動場面における振り返り活動の充実

話し合い活動後と実践活動後に、振り返り活動を位置づける。振り返り活動の目的・内容・方法は、【図5】の通りである。

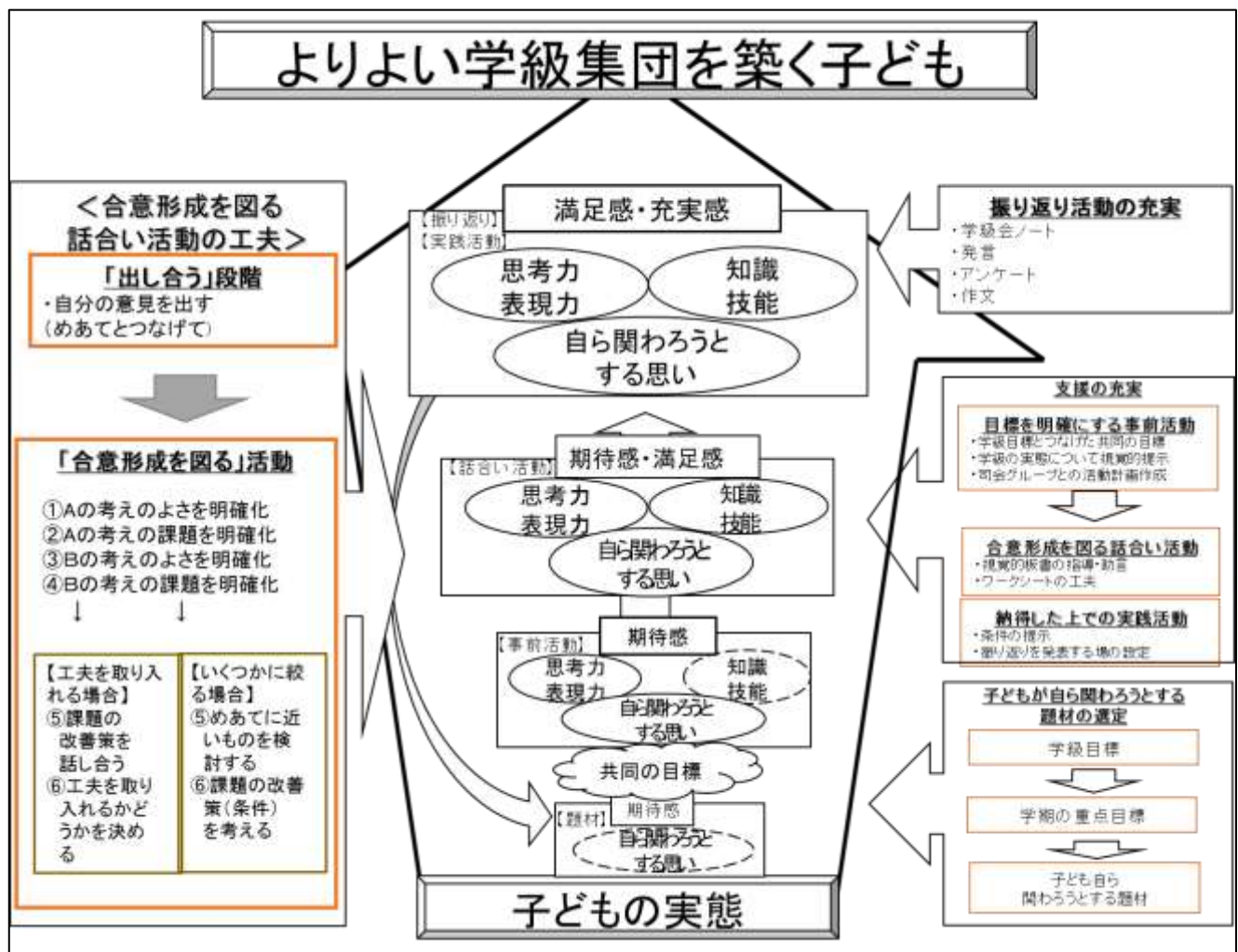
	目的	内容・方法
話し合い活動後	合意形成を図る話し合いができたかどうかを明らかにする。	①自ら関わろうとする思いをもてたか。 ②めあてに即して考えをもてたか。 ③納得できる話し合いができたか。
実践活動後	満足感・充実感をもつものになったかどうかを明らかにする。	①自ら関わろうと思って実践できたか。 ②めあてに即して実践できたか。 ③決まったことを活かして実践できたか。

【図5】振り返り活動の目的・内容・方法

(3) 活動場面における支援の充実

【6 研究構想図】に示しているように、各活動の際に支援を充実する。

6 研究構想図

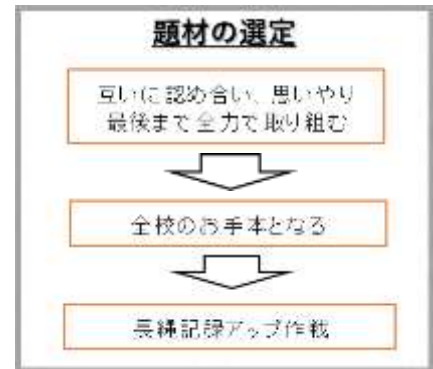


7 研究の実際

(1) 検証授業 1 題材「長縄の記録アップ作戦を考えよう」

① 題材の選定

子ども達は、1学期の長縄測定会后、目標回数を設定するものの練習方法が変わらず、長縄に対する意識に高まりが見られなかった。そこで、スポコン係が自分たちの課題を共有し、よりよい練習方法に取り組み、記録更新を目指そうと提案し、「長縄記録アップ作戦を考えよう」という題材が選定された。教師は、題材を選定するにあたって、長縄の記録アップに挑戦することは、【図6】のように、学級目標へと近づくことを意識させた。



【図6】学級目標につなげた題材選定

② 事前活動

子ども達は、共同の目標達成に向かって自ら関わろうとする思いをもち、今の自分たちの長縄跳びの問題点を探っていった。自分たちが長縄を跳んでいる姿を動画で確認したり、他の先生に見てもらいインタビューしたりする活動である。事前に学級会ノートに目を通し、意見を分類・整理すると話し合いを進めやすいという教師のアドバイスのもと、司会グループの子ども達は、学級会ノートに目を通して「いつ練習するか」や「練習の工夫」について書かれたよさと課題を用紙にまとめていた。

このように、子ども達は、共同の目標達成に向かって、自ら関わろうとする思い、すなわち期待感を高め、目標を達成するための解決方法を見出そうと思考していったことが分かる。

③ 学級会「長縄記録アップ作戦を考えよう」の話し合い活動

「いつ練習するか」について

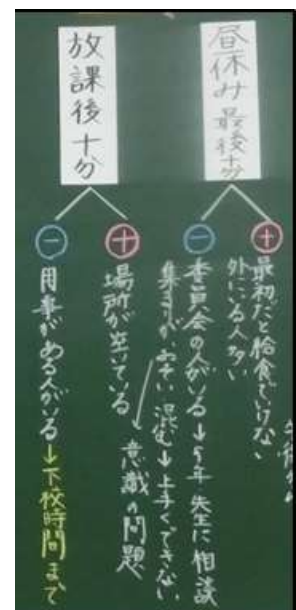
【出し合う活動】

「昼休みの十分間」と「放課後の十分間」の原案が出た。教師のアドバイスのもとに司会グループが【写真1】のように意見を整理し事前に板書していたため、原案のよさと課題が明らかになっていた。そのため、今回は「出し合う活動」を省き、「合意形成を図る活動」から始めた。

【合意形成を図る活動】

(いくつか絞る場合：今回はどちらか1つに決める)

「昼休みの十分間」と「放課後の十分間」のそれぞれのよさと課題が示された板書のもとに、どうすれば課題を解決することができそうかを話し合った。子ども達は、「昼休みの十分間」では、「みんな委員会活動の仕事などで都合がつかない日がある。」「全員そろって練習ができない。」と、どうしても解決できない点があることに気づいていった。「放課後の十分間」は、「下校時間までは全員参加ができる。」や「運動場も空いて練習がしやすい。」というように、課題の改善策が出て



【写真1】よさと課題を話し合い前に明記した板書

きた。そこで、練習時間は「放課後の十分間」に決まった。

子ども達は、共同の目標達成のために、全員が練習に参加できるのはどちらの方法かを考えて話し合い、納得いく集団決定ができた。そして、話し合いで決まった放課後練習に参加しようとする思い（期待感）を高めていった。

「練習の工夫」について

【出し合う段階】

自分達の跳び方の問題点をもとに、練習に取り入れるべき練習の工夫として、「跳び方」「ぬけ方」「並び方」「その他」について意見が出された。そこで、司会が、練習の工夫を取り入れるかどうかを一つずつ確認しながら話し合いを進めた。例えば、「跳び方」に関しては、連続跳びができていない子どもがいるため、「全員が連続跳びができるような練習方法を取り入れよう。」という意見が出た。子ども達は、自分たちの長縄の問題点やめあてを意識しながら、自分の意見を出すことができていた。

【合意形成を図る段階】（工夫を取り入れる場合）

出し合う活動後に体育館に移動し、出された練習の工夫を実際に試して取り入れるかどうかを決めることにした。「連続跳び」に関して、「ゆっくり回す」という意見を取り入れ、実際に連続跳びができなかった子どものタイミングで縄をゆっくり回して練習した。すると、3回目ぐらいになると回すスピードを速くしても徐々に連続跳びができるようになってきた。【写真2】のように、試しの活動



【写真2】試しの活動後、意見交流する様

後、司会が子ども達に活動をしてみての考えを聞いた。「今まで連続跳びができなかった友達が連続跳びをできるようになり、自分達の決めた練習方法が記録アップにつながりそう。」「この練習方法は取り入れて、続けていくべきだと思う。」と、自分達の出した考えに対して、全員の合意形成を図った集団決定を行うことができた。

このように、「工夫を取り入れる場合」の話し合いにおいて、まずは自分達の長縄跳びの問題点を明らかにすることで、「記録アップするか」というめあてに沿って話し合いを進めることができた。試しの活動を行ったことは、子ども達が自分達の長縄跳びの問題点を解決するよりよい方法を思考しながら合意形成を図ることへとつながった。子ども達も「今回は自分たちの納得がいく話し合いができた。」と、合意形成を図る話し合いの進め方を理解し、話し合いを進めていたことが分かる。また、子ども達は「実際に試してみると、〇〇さんが連続跳びをできるようになってよかった。」「今日は、〇〇さんが連続跳びをできるようになるにはどうしたらよいかを話し合った。」のように、振り返ることができた。こうして、子ども達は、自分達で学級の一員として目標達成に向けて納得のいく話し合いができたという満足感をもち、スポフェス本番や今後の練習に対する期待感をさらに高めていった。

④ 実践活動・振り返り活動

決まったことを取り入れた練習を約1ヶ月間続けた。スポコン係が「まずは1分間、体を丸くして跳ぶ練習をします。」のように、全員に指示を出して練習に取り組んだ。また、10分間の練習後は、今日の練習を振り返った。「今日は跳ぶ姿勢がきれいでした。」「〇〇くんの跳び方が上手になってきています。」と互いの練習に対する姿を称賛し合っていた。子ども達は、話し合いで決まったことを理解し、練習の進め方について考えながら、記録アップへの期待感を高め、毎日の練習に取り組むことができていた。

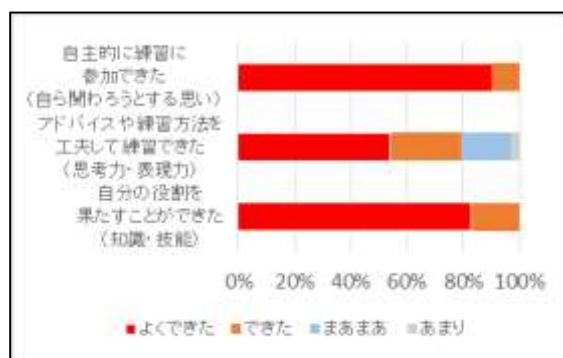


【写真3】姿勢を意識して跳ぶ様子

10月の第2回スポフェスでは、【写真3】のように、自分たちの問題点を意識して体を丸くして跳ぶように声をかけ合っていた。これは、練習してきたことを実践していこうとする気もちが高まった姿である。3分間跳んだ結果は「335回」で、目標の「365回」には届かなかった。子ども達の実践後の振り返りの中には、「自分達の練習方法を考えて取り組んだから、今までよりも気もちがこもったスポフェスだった。」「今回は記録アップすることができなかったけれど、一人一人の跳び方はきれいになった。」「これからも自分達の課題にあった練習方法を取り入れていきたい。」という声がたくさん聞かれた。子ども達は、自分達が共同の目標達成に向かって協働して取り組むことで、自分が学級の一員として貢献することができたと充実感を味わうことができていた。その後も、子ども達は、自分達で決めた練習方法を取り入れながら練習を続けた。そして、12月には396回という記録を出すことができた。子ども達が共同の目標達成に向けて一連の活動を行う中で、学級の一員としての満足感・充実感を味わい、よりよい学級集団を築いていこうとした姿であると考える。

⑤ 検証授業1の考察

合意形成を図る話し合い活動において、出し合う活動で出た意見を取り入れた試しの活動を行った。試しの活動を行ったことで、「この練習方法を取り入れると上手に跳べそうだ。」ということを通理理解でき、全員が納得した上での集団決定を行うことができた。このことから、子ども達は、共同の目標達成に向けて合意形成を図る話し合い活動を行い、全員の納得がいく集団決定をすれば、自ら関わろうとする思い（期待感）を高めることが分かった。また、声をかけ合いながら練習を続けることで徐々に長縄の記録がアップしたため、合意形成を図った話し合い活動は協働で取り組む実践活動につながるということが分かった。



【図7】実践後のアンケート（10月）N：32

しかし、【図7】から、アドバイスや練習の方法を工夫できなかったと考えた子どもが2割程度いることが分かる。このことから、実践活動では話し合い活動で決まったことを取り入れるだけでなく、新たな課題が出てきた際には再度見直す時間を設けるなど、共同の目標に向かって練習を工夫していくことの大切さが分かった。

(2) 検証授業2 題材「1年生からの信頼を得る集会をしよう」

① 題材の選定

学級の2学期の重点目標は「全校からの信頼を創る」としていたが、最高学年として自覚のある行動が見られず、他学年の先生方からの指摘を受けることが多くなった。そこで、「全校からの信頼を創る」ために、「他学年との交流の中で信頼を得ることができる行動をするとよいのではないか。そのために、1年生からの信頼を創る集会をしよう。」というA児の提案があった。

その際、教師は1年生との集会をすることは、どのように学級目標とつながるのか考えさせた。子ども達は、【図8】のようなつながりを意識していった。



【図8】学級目標につなげた題材選定

② 事前活動

1年生の信頼を得ることができる遊びとして、「ドッジビー」「宝探し」「目かくしおに」の3つが原案であった。子ども達は、この中から目標達成できる遊びを選び、めあてに即して学級会ノートに自分の考えを書いていった。ノートには、「一緒に宝を探すことで1年生も喜んでくれる。」「フリスビーだったら6年生が取っても1年生に渡すことでありがたいと言ってもらえる。」という記述があった。子ども達は、1年生からの信頼を得るといふ共同の目標に向かって、自分たちの課題を明らかにし、どのような内容がよいかを考え、自ら関わろうとする思い（期待感）を高めていった。

③ 学級会「1年生からの信頼を創る集会ですることを決めよう」の話合い活動

「集会でする内容」について

【出し合う活動】

子ども達は、「ドッジビー」「宝探し」「目かくしおに」のうちどの遊びがよいかを、理由を含めて発表した。こうして、以下のようにそれぞれの遊びのよさを明らかにした。

- ドッジビー…フリスビーを取って、1年生に渡してあげることができる。
- 宝探し…1年生が分からない暗号を解いてあげることができる。
- 目かくしおに…体力の差がなく、協力して遊ぶことができる。

【合意形成を図る活動】(いくつかに絞る場合)

まず、原案に対する課題を明確にした。それぞれの課題は以下の通りである。

- ドッジビー…1年生と6年生で体力の差がある。
- 宝探し…ペアの1年生としか仲を深めることができない。
- 目かくしおに…「6年生のおかげで楽しかった」と言ってもらえるのか。

次に、この3つの中で、1年生からの信頼を得ることができるのはどれかを検討していった。「ドッジビーは、6年生がフリスビーを取ってあげて1年生に渡せば楽しんでくれる。」や、宝探しについては「今回の集会は仲を深めることがめあてではない。ペアの1年生との関わりの中で信頼を得ることが大切である。」など、めあてに即した意見が出た。しかし、「目かくしおに」については、この遊びをすることで、そもそも1年生からの信頼を得ることができるのかという課題が残った。「ドッジビー」と「宝

探し」については、例えば「ドッジビーは体力の差があるので、1年生は楽しめないだろう。」という課題に対しては、「6年生がフリスビーを1年生に渡してあげれば大丈夫である。フリスビーであったら1年生が6年生を当てることも可能である。」のように、課題の改善策も出された。このようにして、子ども達は、改善策を考えながら、集会でする遊びを「ドッジビー」と「宝探し」の2つに決めていった。

このように、「いくつかに絞る場合」の話合いにおいては、原案に対する課題の改善策をめあてに即して考えることで、合意形成を図ることができると分かった。また、子ども達は、今回の集会のめあては「1年生からの信頼を創ること」、すなわち、「6年生のおかげで」「6年生と一緒にあったから」と1年生に言ってもらえることであると理解し、よりよい方法を考えることができていた。1年生の立場に立ち、目標達成に向けて納得のいく話合いができたという満足感から、1年生との集会に向けて役割分担や準備に対する期待感を高めていった。

④ 実践活動・振り返り活動

子ども達は、集会に向けて役割分担を行い、休み時間を使って準備を進めた。「この暗号は1年生にとっては簡単じゃないかな。」のように、1年生の立場に立って準備を進める姿が見られた。これは、集会の成功に向けて、自分の役割を果たし、自ら関わろうと期待感を高めている姿である。



【写真4】集会後、1年生からの感想発表

1年生との集会では、6年生である自分たちだけが楽しむのではなく、1年生にフリスビーを渡したり投げ方を教えたりする姿や、宝に書かれた暗号のヒントを出す姿が見られた。集会後、【写真4】のように、1年生からの感想発表の場を設けた。「6年生がフリスビーを取ってくれてうれしかった。」「暗号を一緒に解けたことが楽しかった。」と、自分たちが目標としていた感想を聞くことができた。【写真5】の6年生の作文には、「みんなが1年生からの信頼を得るために、一緒に頑張っている姿が見られた。」という記述が見られる。これは、合意形成を図ることができたからこそ、自分たちの目標達成に向けて一人一人が自分の役割を理解し、どのような関わり方をすべきかを考えながら取り組んできた結果であるといえる。子ども達は、1年生が6年生に対して信頼感をもってくれたという満足感や、一連の活動を通して自分の役割を果たしたという充実感を味わっていた。



【写真5】実践活動後の作文

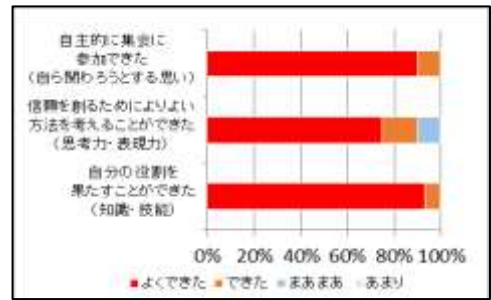
⑤ 検証授業2の考察

子ども達は、合意形成を図る活動において、「ドッジビー」や「宝探し」の課題についての改善策を自分たちの力で考え、納得のいく集団決定をした。これは、合意形成を図る話合いの進め方を理解し、技能を身につけた姿である。

【図9】のアンケート結果から分かるように、子ども達は自主的に集会に参加した。これは、納得のいく話合い活動ができたからである。また、約9割の子どもが「1年

生からの信頼を創るために、よりよい方法を考えた。」とこたえている。このことから、思考力を働かせていることが分かる。さらに、「自分の役割を果たすことができた。」と全ての子どもがこたえているように、充実感を味わっていることも分かる。

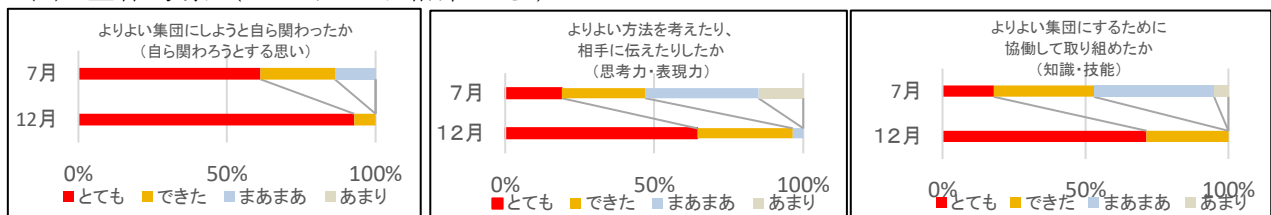
本実践を通して、子ども達は、自分も学級の一員として貢献することができたという充実感を味わい、これからも信頼を得る行動で学級を成長させたいという新たな期待感を高めていった。これが、よりよい学級集団を築く子どもの姿であると考える。



【図9】実践後のアンケート（11月）N：32

8 研究のまとめ

(1) 全体考察（アンケート結果から）



【図10】主題・副主題に関わる7月と12月のアンケート

【図10】のアンケート結果から分かるように、子ども達は「自ら関わろうとする思い」「思考力・表現力」「知識・技能」という資質・能力が高まったと自己評価している。これは、次のような手立ての効果だと考える。

- ・「合意形成を図る活動」において、内容の収束のさせ方を変えたこと
- ・子ども達が自ら関わろうとする思いをもつ題材選定を行ったこと
- ・振り返り活動を「話し合い活動後」と「実践活動後」に2回設定したこと

(2) 研究の成果

- 「合意形成を図る話し合い活動」で内容によって収束のさせ方を変えたことは、子ども達の納得がいく集団決定となり、一連の活動を通して満足感・充実感を高めていくことにつながった。
- 子ども達が自ら関わろうとする思いをもった題材の選定は、活動に対する思い（期待感）を高めることが分かった。
- 振り返り活動を「話し合い後」と「実践活動後」の2回設定したことは、学級の一員としての自分の姿をみつめることになり、満足感・充実感を味わうことにつながった。

(3) 今後の課題

- 「合意形成を図る話し合い活動」には自分の意見を再考したり試しの活動を行ったりする必要があるため、十分な時間の確保が必要である。
- 一連の活動に対する自分自身の姿について振り返るだけでなく、学級集団がどのように成長したか振り返らせる場が必要である。

<参考文献>

- ・ 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」
- ・ 国立教育政策研究所 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」